

# 都市・農村共生社会創造 全国リレーシンポジウム

# in 山形

～田園回帰の時代を拓く～

日時 平成27年7月18日(土)

13時30分開会

会場 食糧会館(山形市旅籠町3-1-4)

参加料 無料

定員 150名

## 開催趣旨

都市住民、特に若者や子育て世代などの農村志向が高まっています。こうした動きを「田園回帰」として捉え、農村の持つ可能性と存在意義を見つめ直し、農村と都市が協力し合いながら共生する社会を創造するために、私たちは何をすべきでしょうか。基調講演による問題提起とパネルディスカッションを通じて考えます。



## 基調講演

講師：民俗研究家 結城 登美雄 氏

### 「地元から問う、この国のあり方」

## パネルディスカッション

### 「都市・農村共生社会の創造に向けて」



コーディネーター

読売新聞東京本社編集委員  
青山 彰久 氏



アル・ケッチャーノ  
オーナーシェフ  
奥田 政行 氏



山形大学農学部 食料生命環境学科  
教授 博士(農学)  
小沢 互 氏



岩手県住田町農政課職員  
元 緑のふるさと協力隊員  
小野 和絵 氏



一般社団法人農山漁村文化協会(農文協)  
編集局次長  
甲斐 良治 氏

主催：全国町村会 一般財団法人 地域活性化センター



平成27年度  
全国5ヶ所で  
開催



# プログラム

13:30 **開会のあいさつ** 山形県町村会長および全国町村会経済農林委員長

13:40 **基調講演** 「地元から問う、この国のあり方」 民俗研究家 結城 登美雄 (ゆうき とみお) 氏

14:30 地域づくりや地域再生の機運が高まりつつある。何よりも大切なことは、人間が生き、暮らし、人生の営みの場である「地元」に立脚した視点である。人口減少社会を迎え、次代を担う若者たちに、我々はどのような未来を提示できるのか、この国のあり方を問う。

■プロフィール

1945年生 山形県出身。山形大学卒業。東北大学大学院非常勤講師。東北各地をはじめとした農山漁村をフィールドワークしながら、住民を主体にした地域づくりの手法「地元学」を提唱。かみえちご山里ファン倶楽部・集落再生カレッジ「里創義塾(りそうぎじゅく)」(2015年4月開校)塾長。1998年「NHK東北ふるさと賞」、2005年「芸術選奨・文部科学大臣賞(芸術振興部門)」受賞。著書「地元学からの出発」(農文協)、「東北を歩く一小さな村の希望を旅する」(新宿書房)等。

14:40 **パネルディスカッション** 「都市・農村共生社会の創造に向けて」

16:10 人口減少社会を迎え、地方創生への対応が求められる中で、農村が輝き、都市や農村に暮らす人々が共に生き甲斐を持続するためにはどうあるべきか。社会のあり方、暮らし方の視点から都市と農村が共生するための方策を探る。

**コーディネーター** 読売新聞東京本社編集委員 青山 彰久 (あおやま あきひさ) 氏

1956年生 長野県出身。横浜支局、北海道支社、東京本社地方部、解説部次長を経て2007年4月から編集委員。地方自治を担当。日本自治学会理事、総務省過疎問題懇談会構成員他。著書「地方自治制度“再編論議”の深層—ジャーナリストが分析する」(公人の友社)。

パネリスト (50音順)

アル・ケッチャーノ オーナーシェフ 奥田 政行 (おくだ まさゆき) 氏

1969年生 山形県出身。地元高校卒業後東京で修行。2000年アル・ケッチャーノ開業。地元食材にこだわり生産者の顔の見えるメニューを提供中。山形県「食の都庄内」親善大使、サンマリノ共和国「食の平和大使」、世界の料理人1000人(イタリア スローフード協会)。国内外の受賞歴、著書多数。

山形大学農学部 食料生命環境学科教授 博士(農学) 小沢 亙 (おざわ わたる) 氏

1957年生 岩手県出身。帯広畜産大学畜産学研究所畜産経営学専攻修士課程修了。千葉大学自然科学研究科園芸経済学専攻博士課程単位取得満期退学。財団法人農林統計協会、秋田県立農業短期大学を経て現職。編著「飼料用米の栽培・利用～山形県庄内の取り組みから」2009年創森社。

岩手県住田町農政課職員 小野 和絵 (おの かずえ) 氏

1982年生 佐賀県出身。岩手大学卒業後、緑のふるさと協力隊員として1年間住田町にて地域活動。活動後、北海道足寄町で酪農業に従事。2009年に住田町に移住。現在、夫、子ども2人の4人家族。

一般社団法人農山漁村文化協会(農文協)編集局次長 甲斐 良治 (かいりょうじ) 氏

1955年生 宮崎県出身。九州大学経済学部卒。記者・編集者として全国を歩き、定年帰農や若者たちの新しい農的生き方や地元学による各地の地域づくりに強い関心をもつ。明治大学農学部客員教授として次世代育成にも関わる。

アクセス・申込み方法

- ・山形駅からバスで8分、市役所前下車徒歩3分
  - ・参加ご希望の方は、下記申込書に必要事項をご記入のうえ、郵送、またはメール、FAXで送付してください。
- 申込締切：7月3日(金)

■申込み・問い合わせ先

一般財団法人 地域活性化センター 企画・コンサルタント業務課  
〒103-0027 東京都中央区日本橋2-3-4 日本橋プラザビル13階  
TEL 03-5202-6133 FAX 03-5202-0755 E-mail kikaku@jcrd.jp



参加申込書

フリガナ			
氏名			
職業 (会社名・学校名)			
TEL		FAX	
E-mail			